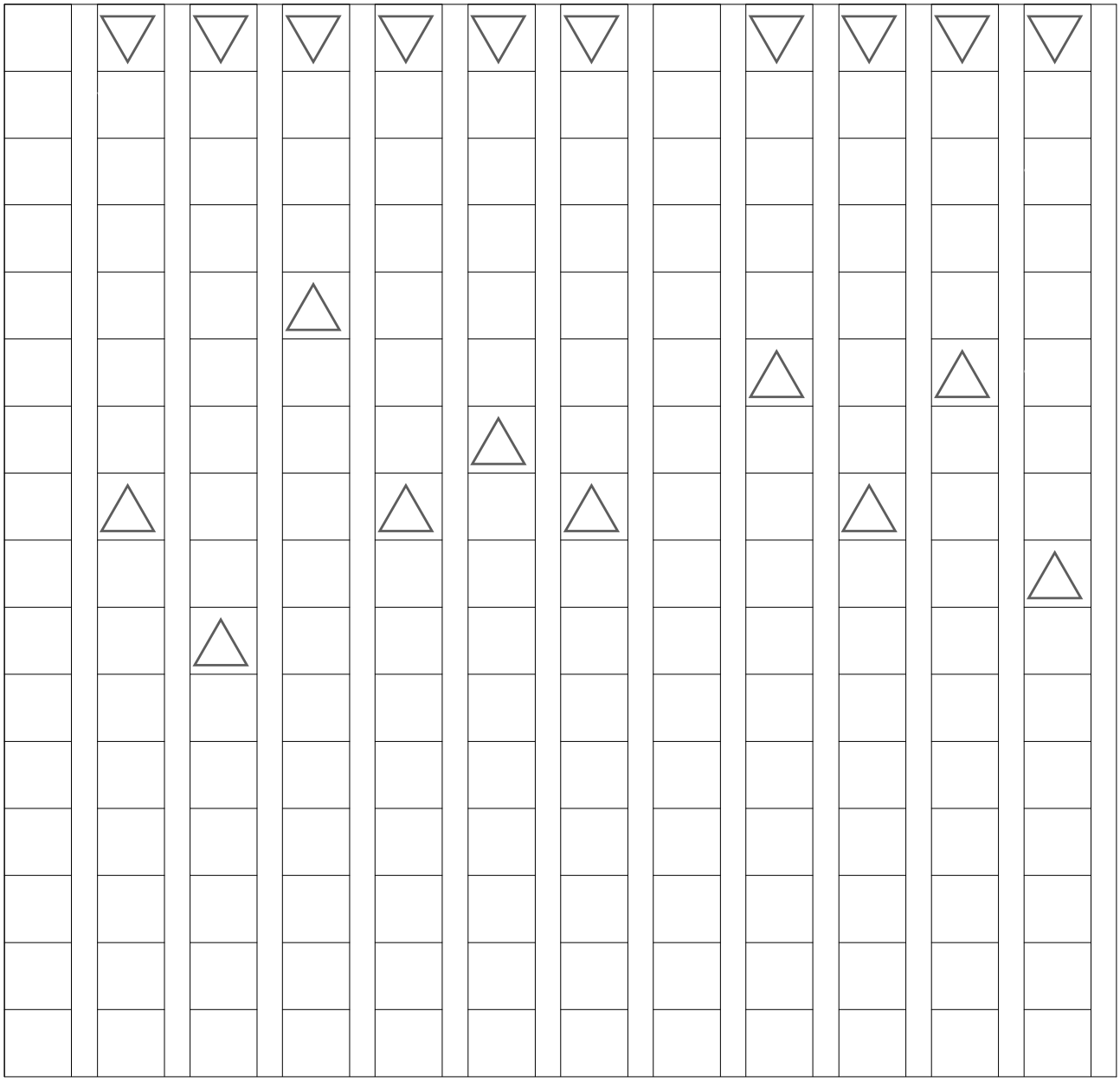
視写　名前【　　】

「大漁」　金子　みすゞ

朝やけ小やけだ
大漁だ。
大羽いわしの
大漁だ。

浜はまつりの
ようだけど
海のなかでは
何万の
いわしのとむらい
するだろう。



視写　名前【　　】

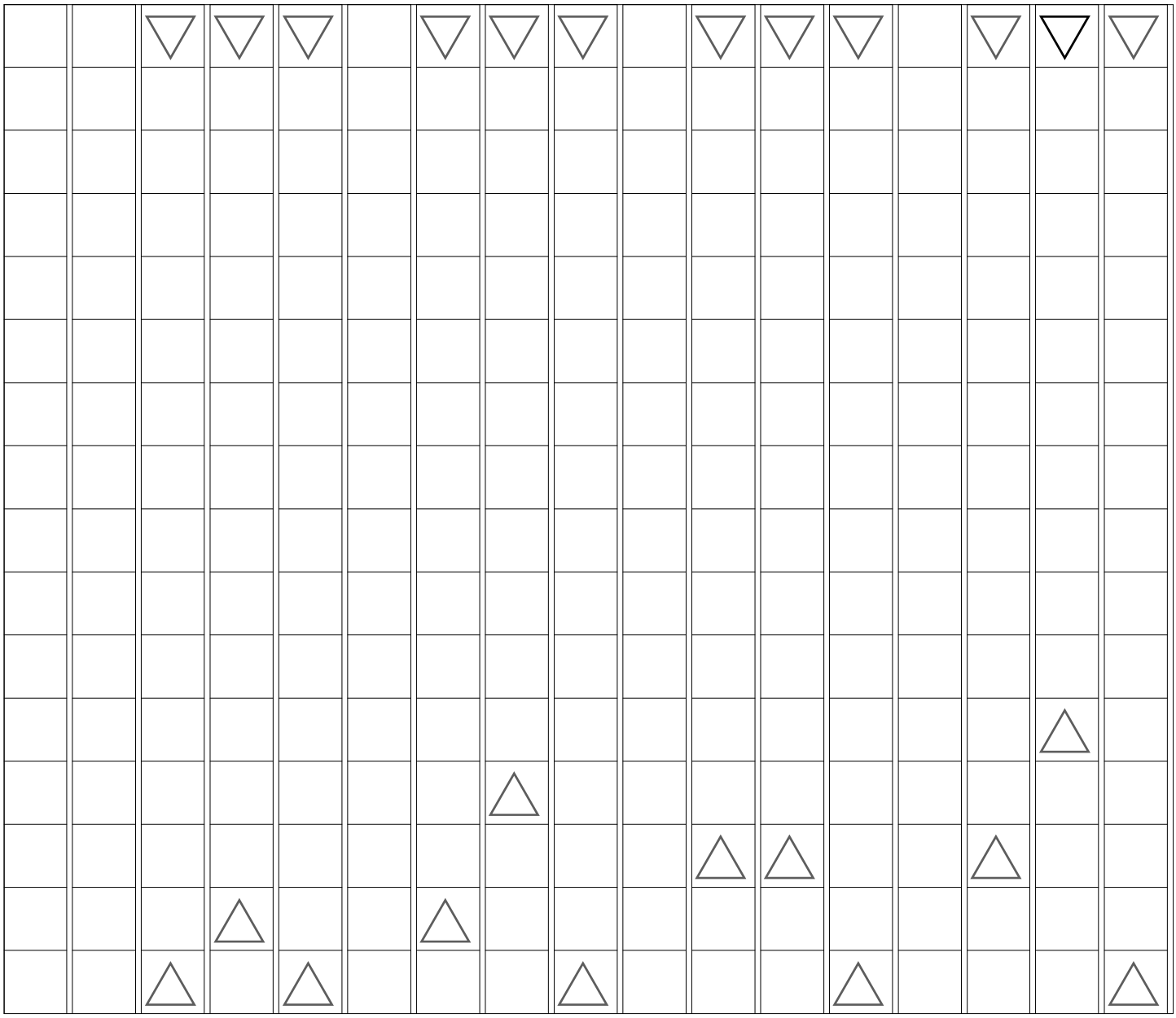
「不思議」　　金子　みすゞ

わたしはふしぎでたまらない、
黒い雲からふる雨が、
銀にひかっていることが。

わたしはふしぎでたまらない、
青いくわの葉たべている、
かいこが白くなることが。

わたしはふしぎでたまらない、
だれもいじらぬ夕顔が、
ひとりでぱらりと開くのが。

わたしはふしぎでたまらない、
だれにきいてもわらってて、
あたりまえだ、ということが。

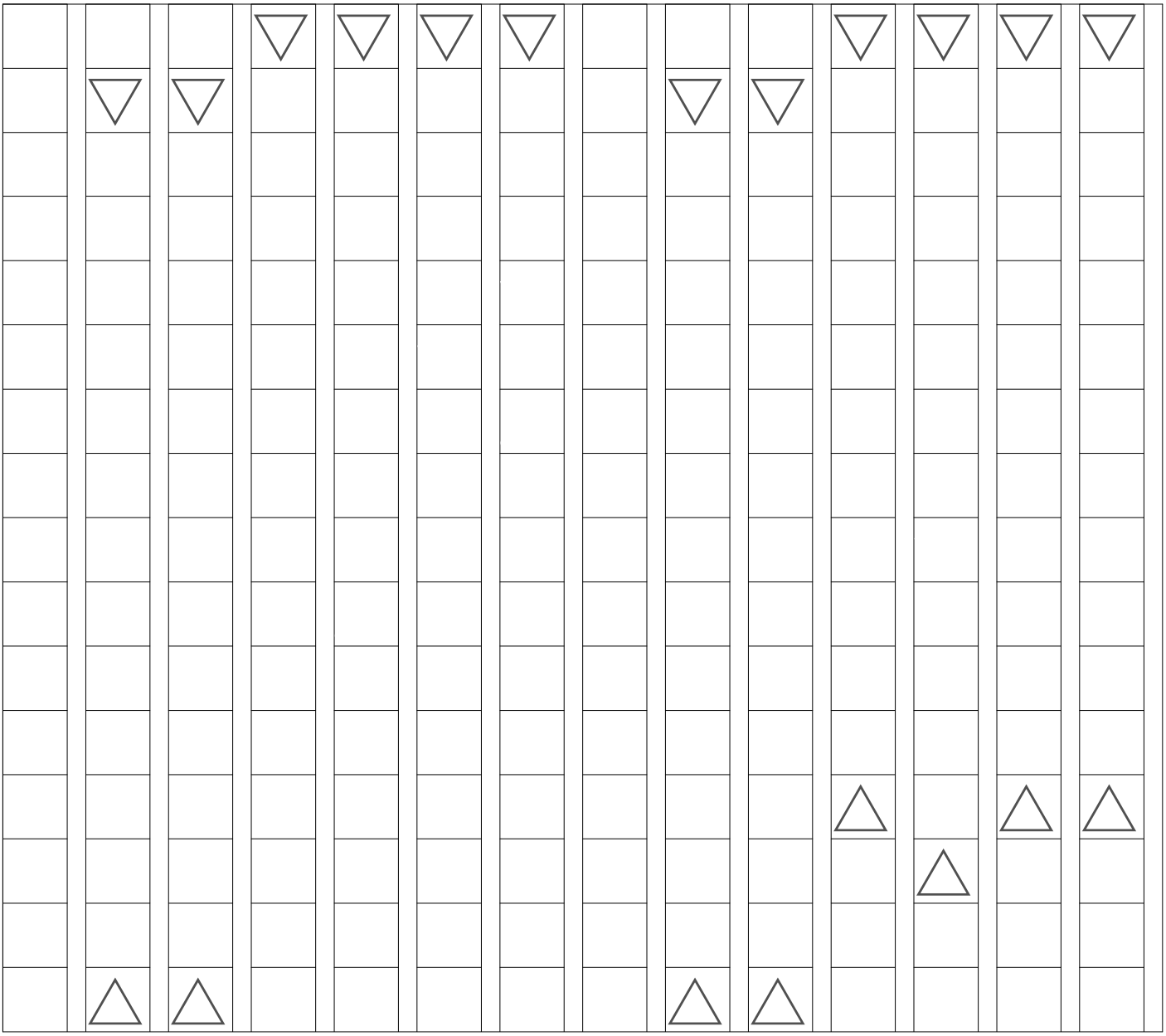


視写　名前【　　】

「星とたんぽぽ」金子　みすゞ

青いお空のそこふかく、
海の小石のそのように、
夜がくるまでしずんでる、
昼のお星はめにみえぬ。
　見えぬけれどもあるんだよ、
　見えぬものでもあるんだよ。

ちってすがれたたんぽぽの、
かわらのすきにだァまって、
春のくるまでかくれてる、
つよいその根はめにみえぬ。
　見えぬけれどもあるんだよ、
　見えぬものでもあるんだよ。



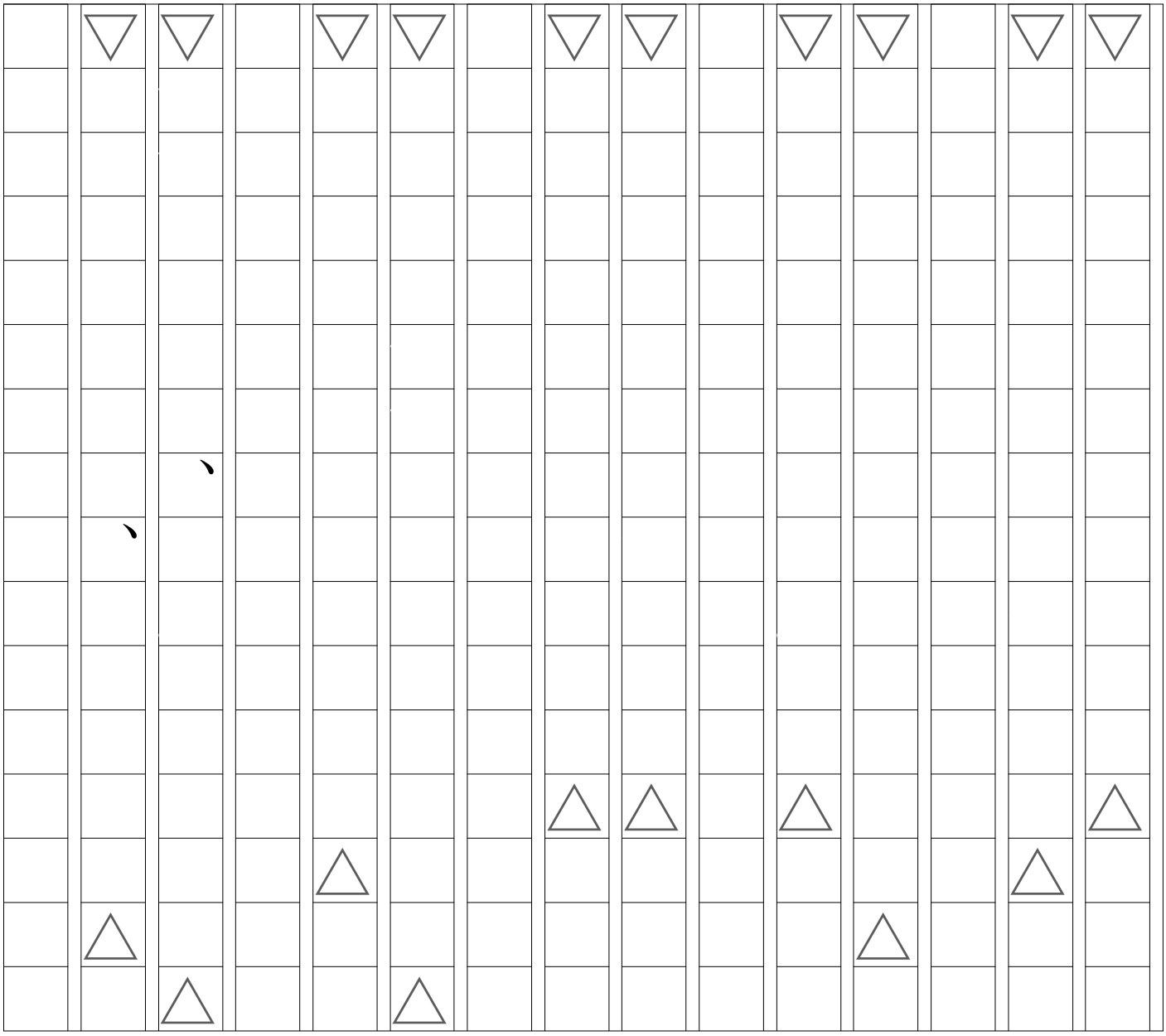
「わたしと小鳥とすずと」

金子　みすゞ

わたしが両手を広げても
お空はちっともとべないが
とべる小鳥はわたしのように
地べたを早くは走れない

わたしが体をゆすっても
きれいな音は出ないけど
あの鳴るすずはわたしのように
たくさんな歌は知らないよ

すずと小鳥と、それからわたし
みんなちがって、みんないい



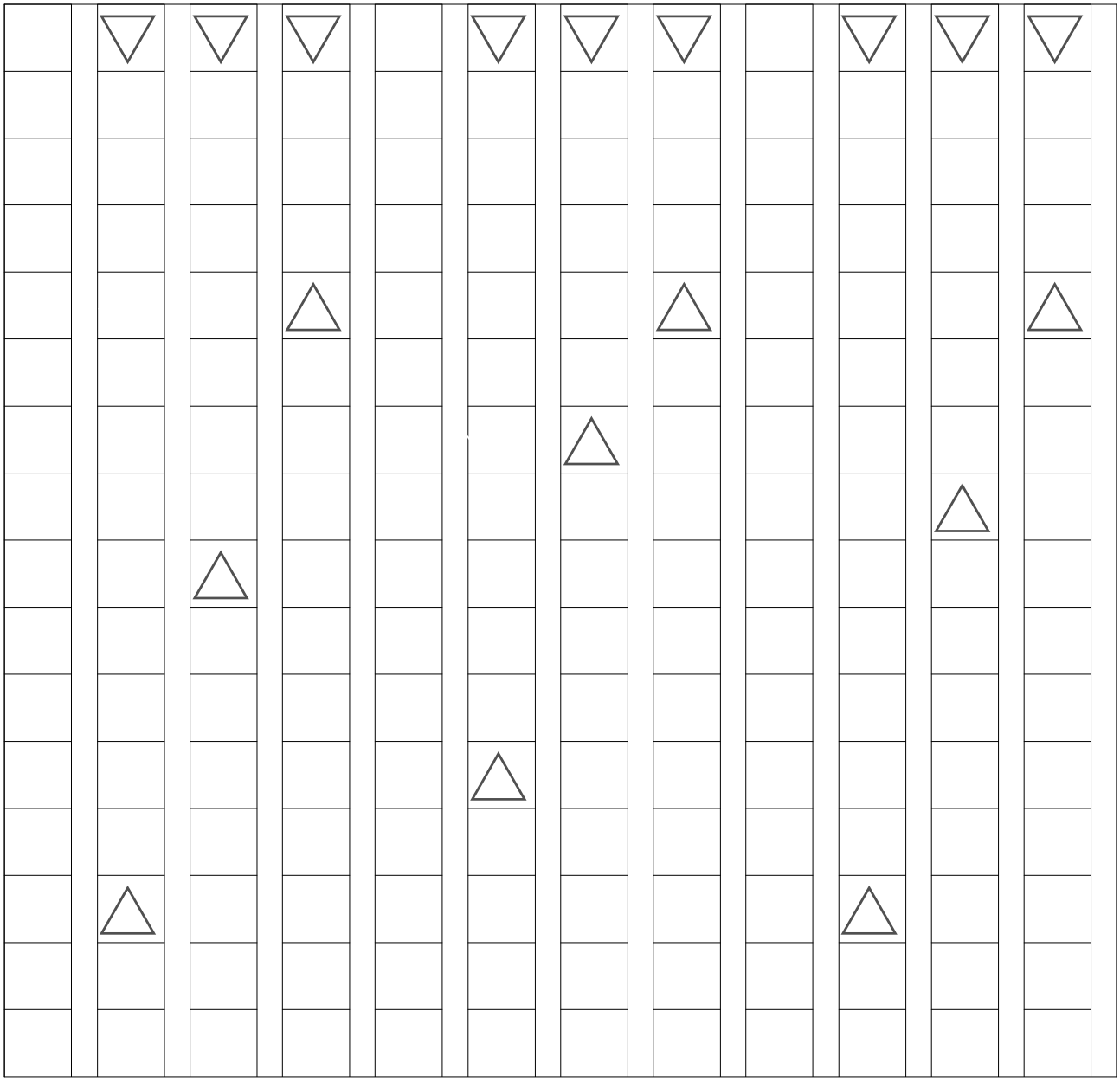
視写　名前【　　】

「積もった雪」　金子　みすゞ

上の雪
さむかろな。
つめたい月がさしていて。

下の雪
重かろな。
何百人ものせていて。

中の雪
さみしかろな。
空も地べたもみえないで。



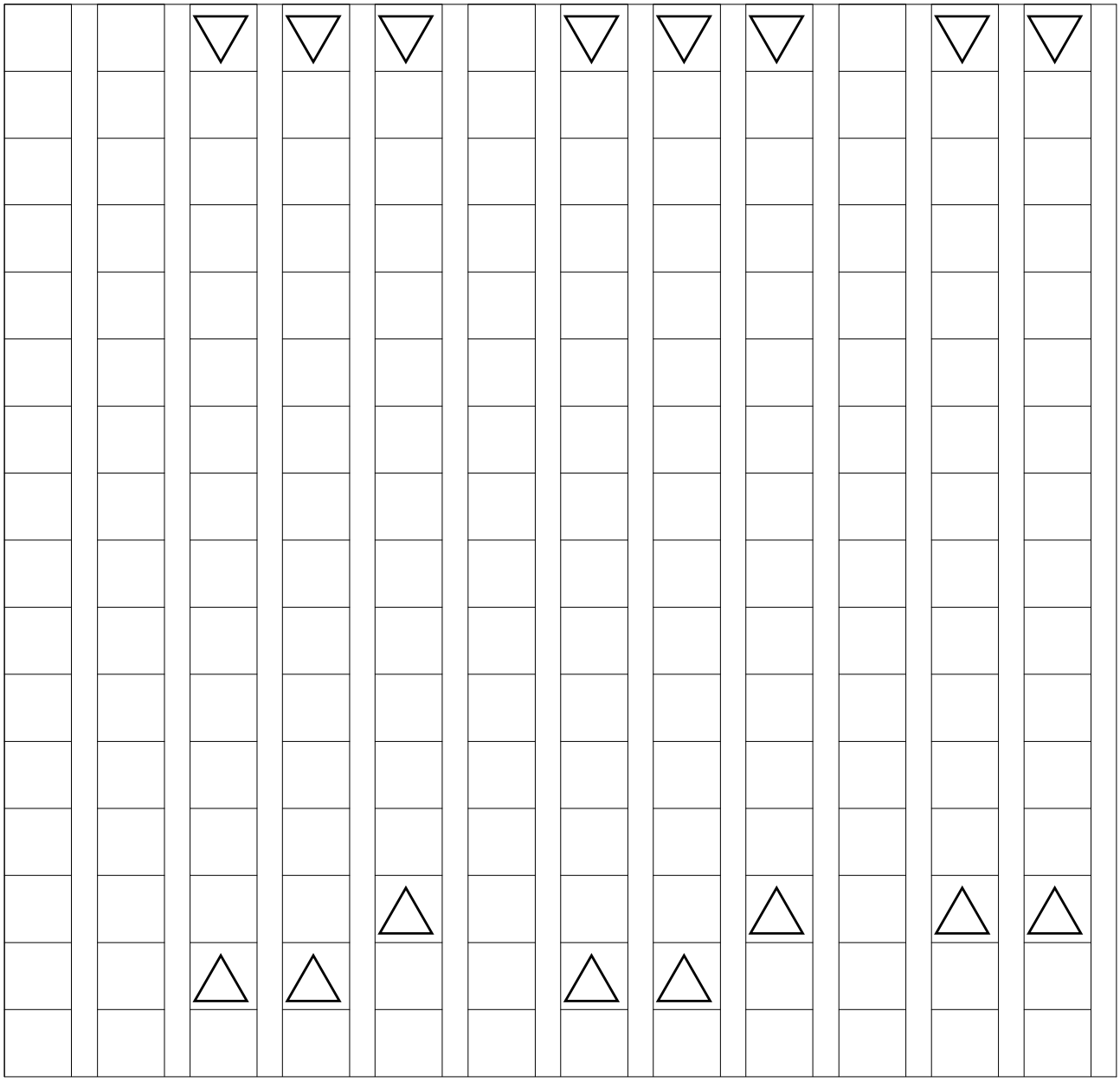
視写　名前【　　】

「犬」　　金子　みすゞ

うちのダリアの咲いた日に
酒屋のクロは死にました。

おもてで遊ぶわたしらを、
いつでもおこるおばさんが、
おろおろ泣いておりました。

その日、学校でそのことを
おもしろそうに、話してて、
ふっとさみしくなりました。



視写（ししゃ）　名前（なまえ）【　　】

「こだまでしょうか」

金子（かねこ）　みすゞ

「あそぼう」っていうと
「あそぼう」っていう。

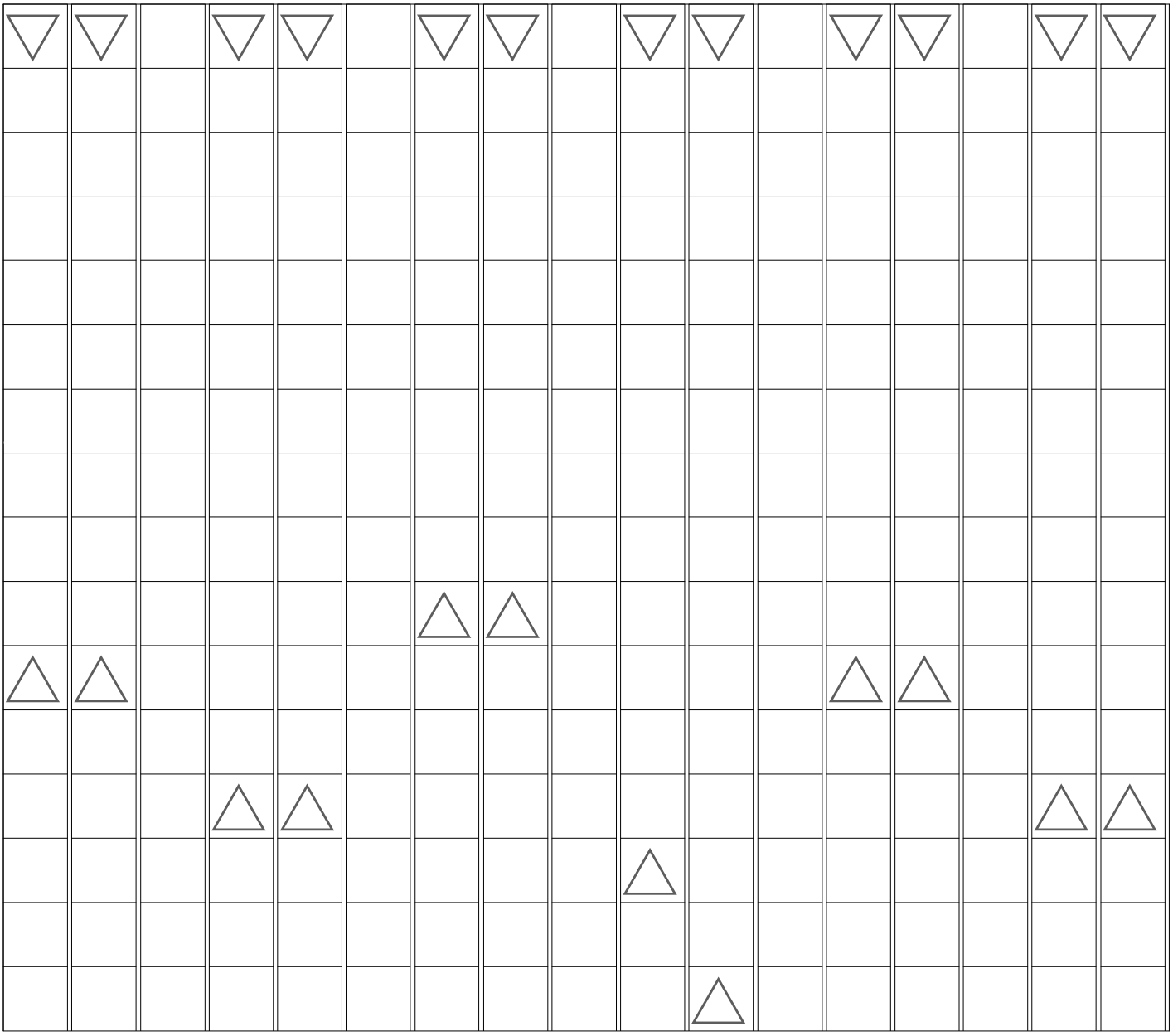
「ばか」っていうと
「ばか」っていう。

「もうあそばない」っていうと
「あそばない」っていう。

そうして、あとで
さみしくなって、

「ごめんね」っていうと
「ごめんね」っていう。

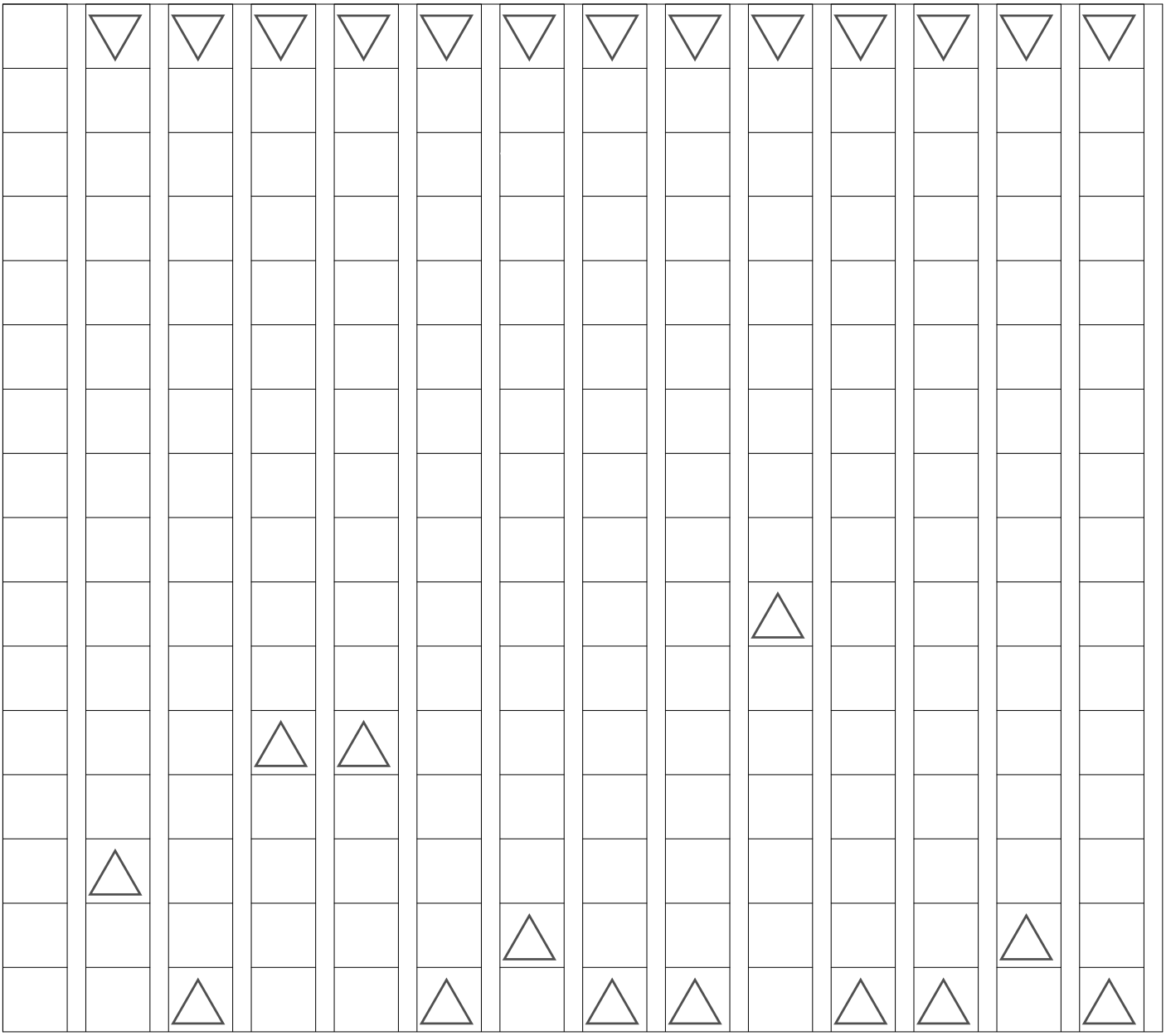
こだまでしょうか、
いいえ、だれでも。



視写　名前【　　】

「あどけない話」高村　光太郎

ちえ子は東京に空がないという
ほんとの空が見たいという。
わたしはおどろいて空を見る。
さくらわかばの間にあるのは、
切っても切れない
むかしなじみのきれいな空だ。
どんよりけむる地平のぼかしは
うすもも色の朝のしめりだ。
ちえ子は遠くを見ながら言う。
あたたら山の山の上に
毎日出ている青い空が
ちえ子のほんとの空だという。
あどけない空の話である。



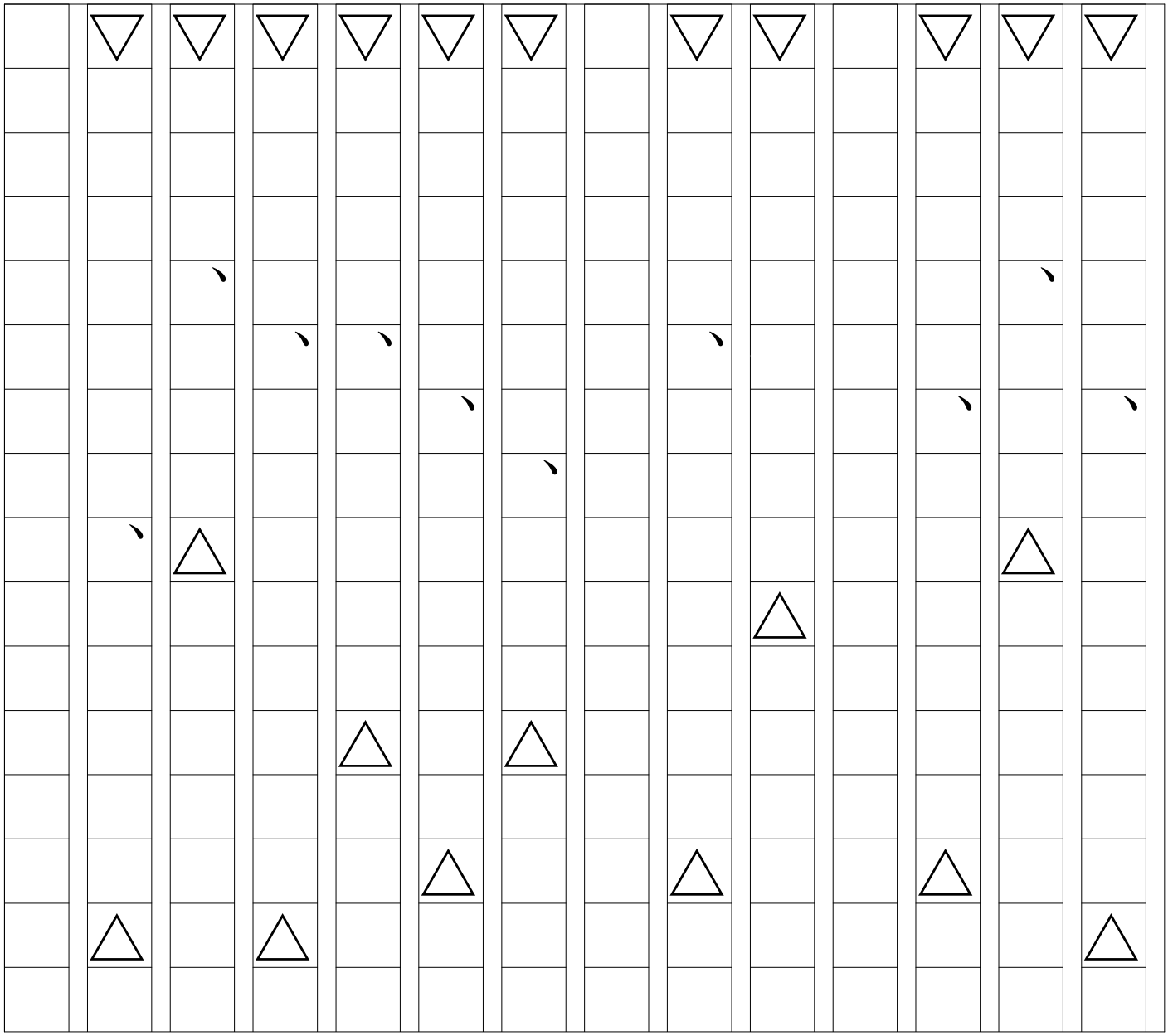
視写　名前【　　】

「ひよどり」　　蔵原（くらはら）　伸二郎（しんじろう）

がっこうの、かえりみちだよ
ピーヨ、ピーヨ
ひよどりが、ないているよ

大（おお）きな竹（たけ）やぶから
青（あお）い空（そら）が、すんでみえるよ

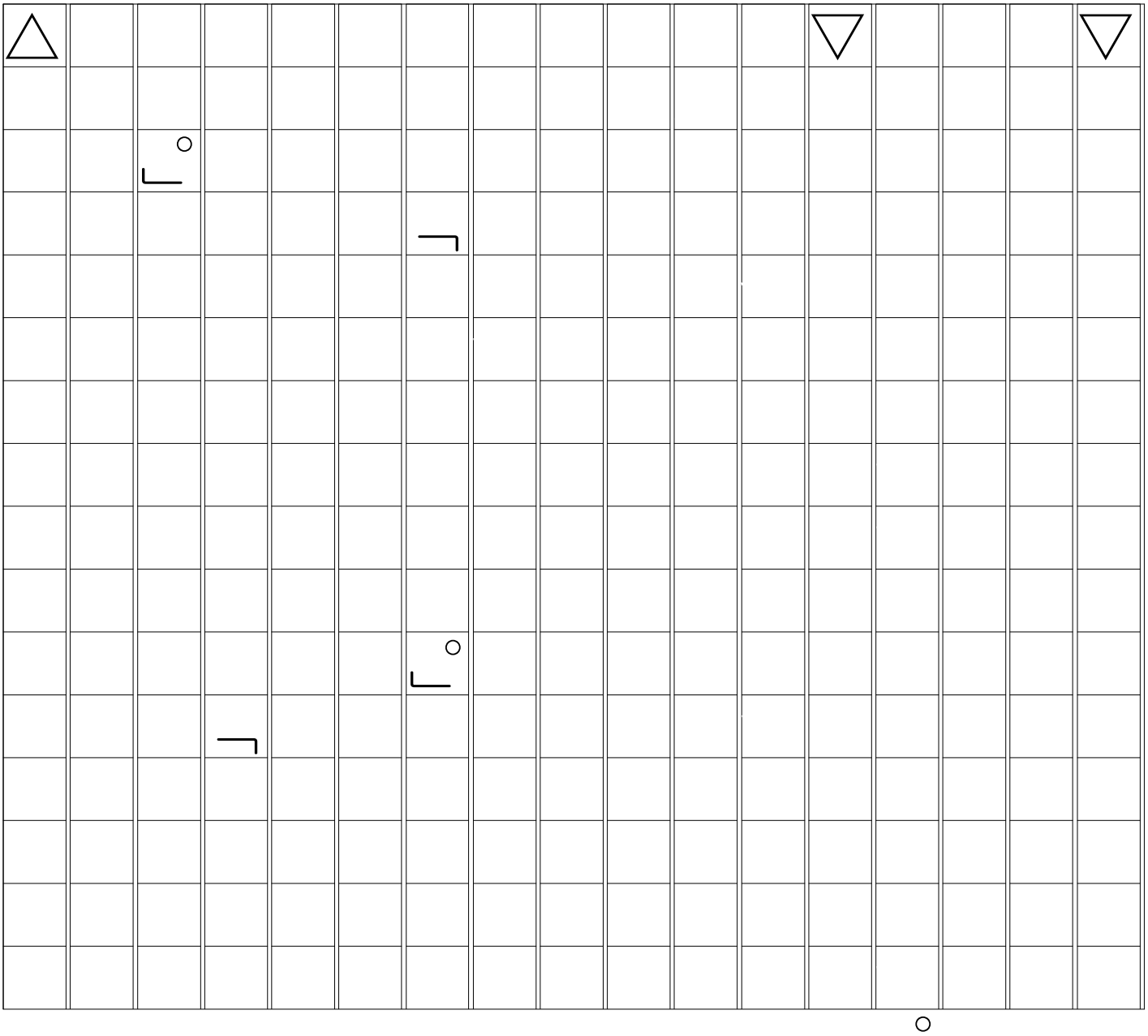
みよちゃんと、ぼくが
ひよどりの、まねをしたら
こんどは、ひよどりが
ぼくらの、まねをしているよ
ピーヨ、ピーヨ
なんてんのみが、まっかだよ



視写　名前【　　】

「学校の桜の木」　小川　未明

▽ある小学校の運動場に、一本の大きな桜の木がありました。枝を広げげて、夏になると、その木の下は日かげができて、すずしかったのです。

▽子供たちは、その木の下に集まりました。せみをとろうとするものがあれば、赤くなったさくらんぼを取ろうとするものもありました。桜の木は、ちょうどお母さんのように、子供たちのするままにまかしていました。「太い木だなあ。」といって、むじゃきな子供たちは、小さな両手を開いて、太いみきにだきついて、見上げるものもあれば、「いい木だなあ。」と、いまさらのように、感心して、ながめるものもありました。

△